

## 第九部

## 第五回 參議院厚生委員会会議録第二十四号

昭和二十四年五月十七日(火曜日)午前  
十時二十三分開会

## 本日の会議に付した事件

○児童福祉法の一部を改正する法律案

(内閣提出、衆議院送付)

○船員保険法等の一部を改正する法律

(内閣提出、衆議院送付)

○委員長(坂本重蔵君) 委員会を開会いたしました。本日は児童福祉法の一部を改正する法律案について、その審議を続けています。質疑を行ないます。

○山下義信君 衆議院の修正案であります。これは一應は分つておるよう

ますが、この審議の状態などは政府が御承知と思しますから、衆議院の修正案はどういうところを修正したかという点を、簡単に一應説明して置いて頂きたいと思います。

○政府委員(小島徳雄君) 一つは、今度の見童福祉法の改正案によりまして、保育所は乳幼児以外の者も保育す

ることができるという條文の修正案を提出いたしましたのであります。そのための規定に伴つて、市町長が合のその規定に伴つて、市町長が措置をした場合は、措置費がかかるよう

な規定に改正案が衆議院の方においておきました。それからもう一つは、條文の整理に

されまして、誤りがございましたので、その誤りを訂正する、こういう意

味の改正案が衆議院において提出されただけであります。

○山下義信君 そうちますと、政府修正案の第二十四条の市町長のいたしま

するその保育所に収容すべき保護に関する規定

しまして、第三十九條の第二項が政府の修正案によつて拡大されましたので、保育所に入れることができる子供

の範囲が拡大されましたので、それを

第二十四條の市町村長の保護すべき義務規定にそれが取入れまして、そらし

て更に乳児、幼児でないところの保育所に保護いたしましたその入所の児童

の費用を、補助の対象にまで拡げて行

こうとすることが、衆議院の第二十四條の修正の趣旨と、こういうことにな

るものであります。

○政府委員(小島徳雄君) さようございます。

○山下義信君 そうすると三十九條の第二項で拡大されました普通の児童の補助の点から眺めて見ますと、それは

第三項で拡大されました普通の児童の補助の点から見て見ますと、それは

されて、それに伴いまして計費が出さ

れるわけであります。多少違う場合

もありますし、同じような場合もある

が、実は他の委員の方の御質疑の都合

で私先に残りをさして頂いておるわけ

であります。第五十三條の保護の規

定についてですが、これは第五十二條の二号が除かれている。即ち市

町村児童福祉委員会の費用が除かれ

た。これは政府の修正案は設置する

推移につつておるわけであります。

その設置しました市町村の児童福祉委員会に對しての費用を、若し政府が幾

らかでもそれに対し補助をしてやる

といふお考えはあるのでしょうか、な

は、当然補助を出すべき途を拓くべき

であると考えるのであります。政府

の方においてできるだけ補助の方法を

講ずる考え方もありのようで、只今の

御答弁で承知いたしたのであります

が、実は他の委員の方の御質疑の都合

で、その点はまあそういうことにいた

して置きます。

次に第五十六條の第三項であります

が、第三項に保護を受ける者、同居の配偶者、これらの人達が一年以上引続

いて居住した市町村という規定が第三項にあります。これを今回特にお入れ

になりました理由を分るよう一つ御

説明を願いたいのです。

○政府委員(小島徳雄君) 従来これら

のものは命令で定めるところによる

といふわけじやございませんから、普

通の乳幼児と同じように、保育がそこ

においてなされる、その費用を出しえ

る、こういうことになるわけであります。

○山下義信君 分りました。そうする

と、年齢の差によります日を保育の

その児童につきましては、年齢の差に

よりましての補助額の差はないのでござりますか。

○山下義信君 第三十九條の第二項は

ですね、乳幼児よりは年齢の多い普通

の児童も取扱えるように今回改正され

た。從つて衆議院の修正案は、その第

て筋ではないか、こういう趣旨で改めたわけで、別に特に問題が起きたといふわけではありませんが、そういううちに書く方が合法的である、法律的に正しい行文である、二、三の意見がある。

だ聞いてないのですから、多少そんな問題がないというわけぢやありませんが、大体この精神において実施されるというふうに解しております。

におきましては、今回の修正案におきましてはいろいろの場合が考えられるのであります。それは各具体的な措置が実際問題といたしまして違つて来ておるわけであります。一律的でござ

だ何らかの斡旋をするのでありますよ。それでは私は市町村の保護規定を義務付けて拡大した意味をなさんと想うのであります。が、そういたしますと政府の修正案の通りにするということ

措置としてなし得る場合もありましょ  
うし、いろいろな面が考えられるので  
ありまして、ここは非常に今申しまし  
たようだ、すべてこれの義務として市  
町村が負担しなければならんと書きます

改めたわけあります。

○山下義義君　今一つだけ第五十一條の一項の第一号であります、政府の一項の修正案によりますと、市町村の支弁いたしまする費用を第二十二条、二十二條、二十四條本文だけに限つてお

ざいませんから、それを法的に見ましてすべてこれらも市町村の負担にしなければならんというふうに義務的に書くことは実際の法律の規定の形式としてはちよつと困難であるといふうたる考

となりますが、この右の三ヶ條の但し書の指置の場合は、「一体どういうふうに実際は処置して行くのでありますか、その点を御説明願いたいと思います。

るところとは、およつと法律的に困  
難じやないかとかように考えておる次  
第であります。

○政府委員(小島徳雄君) この問題は  
例が、今日まで兒童福利法關係に付  
てあったことがあるか。こういうことよ  
をお尋ねして見たんです。

社の发展を我々は期待するのであります  
が、折角そこまでなされておいでにな  
つて補助の規定の方におきましてお  
渡りになりまして、本文だけになされ  
まして二十二條、二十三條、二十四條

町村の負担とするということにつきましては、法律的に一律に書くことは不適当だこういうふうに考えるのあります。

ましても、今のように児童福祉法の規定に基く市町村の義務でなくして、当然生活保護法やらなければならん義務を、市町村がそれに対し無関心であつたのを、この規定に基いて初めて

但し書の措置の一つの例であつて、生保謹法でやるならば、それはその分は問題がない。それから児童福祉法によらざるところの市町村の種々の世話、これれもとより児童福祉法の関知

財政におきましても、相当困難の点がありまして、お話をのように生活保護法の問題などにおきまして、全額國庫負担して與れというような要望が前からあつたのであります。今日の建議でも、そういう要望は一面にあるのです。ありますが、児童福祉法の建前といいたしまして、やはり府縣市町村というものが國と同じようにそれらの市町村の居住児童につきまして福祉を図ること、この程度の規定におきまして運用するようだ。我々は府縣市町村においても、児童福祉法の建前といいたしまして、やはり府縣市町村といふことが國と同じようにそれらの市町村の居住児童につきまして福祉を図ること、この程度の規定におきまして運用するようだ。我々は府縣市町村においても、児童福祉法の建前といいたしまして、やはり府縣市町村といふことが國と同じようにそれらの市町村の居住児童につきまして福祉を図ること、この程度の規定におきまして運用するようだ。我々は府縣市町村においても、児童福祉法の建前といいたしまして、やはり府縣市町村といふことが國と同じようにそれらの市町村の居住児童につきまして福祉を図ること、この程度の規定におきまして運用するようだ。

○政府委員(小島國雄君) 御承知の通  
り規定の形式におきましては、本文だけがいわゆる措置費としたしまして市町村の費用になります。但し書の場合  
の肝腎の三ヶ條の但し書の方の措置につきましては、費用の対象にはなさらぬことに修正案がしておいでになります。その本文の方におきまする但し書の市町村の保護も是非せんやならん。殊に今回大修正をなされた、それの費用の方を惜しまないで、本文だけではなくして右の二十二條、二十三條、二十四條の全文に通じましての措置に対する費用も、市町村の支弁になさるのが私は本筋ではないかと思うのであります。が、但し書を除外されまして、本文だけに第五十一條の第一項一号に限られましたのはどういうわけでございますか。

に書き現わしていく、というのと、それでは千差万別であるからこれは法律的置はただ書き現わしにくいから書かんといふことは意味をなさんのでありますて、その措置も、本文の措置の費用を負担する以上は本文の精神を汲んで、施設がないから但し書のような臨機應変の措置をしろ、こうなつておつて但しその方の費用は知らんぞといふのありますと、そうすると但し書の方の措置といふものは、費用を市町村が負担しない措置とは如何なる措置を指すか、單なるこれは精神指導でありますか、單なる相談に應ずるのでありますか、どういう市町村は措置をするのであるか。市町村が費用を負担する、但し書の世話をするのでなければ意味がないように存ずるのでありますか、た

措置する場合におきましては、それはこの規定に基く市町村の義務でなくして、生活保護法に基く市町村の義務、あるいは府県の義務、國の義務ということになるのであります。従いまして、ここにある場合すべて児童福祉法によつて市町村が負担するということは、少し法律的にむづかしいし、又実際問題といたしまして、児童福祉法の規定といふものは、全般的に割一的に市町村が必ずこれを負担しなければならんとする規定でございまして、今申しますようにいふべくの例がございまして、あるいは生活保護法の義務として出場合もありますし、或いは市町村が法律適用に基く、この児童福祉法に基く義務でなくして、市町村自身は特殊の

するところではないのです。只今の私の質疑の問題にはいたしておらず、私の質疑をしておりますのはむしろ児童福祉法の二十二條、二十三條、二十四條のこの規定によりまして、市町村長が措置をいたしましたときの面も生活保護法によらない以外の母子寮の代用、保育所の代用、助産施設のないときの場合の代用の措置をいろいろいたしました。例えは保育所を寺院の一部所を借りてそこに三人、五人の子供を臨時に入れる、或いは遊休の住宅を借りて母子寮の代用施設として市町村長が取計りをした、或いは助産施設がないから市町村には産院を置く、そういう場合に産婆の家の座敷が二つ三つほど空いたのがあって、それを代用の助産施設のようにいたして、保護をすべき産婦の世話をさせた場合のそ

う問題は我々のところに真摺にしてま  
町

のないものを指す費用といふのであります。但し書の場合

但し書の世話をすなむにあれば意味  
ないよう存ずるのであります、た

法律適用に基づくこの労働基準法における義務ではなくて、市町村自身は特種の

の時所放説の如きはいかにも俗説を  
要すべき種類の世話をさせた場合のそ

の措置に要りました費用は、この修正案によりますと入るのですか入らないのですか。法律の上から申しますと、即ち正当事務がせられた施設に対する措置をいたした分だけ、第五十一條は費用を負担するというのでありますから、そういうものに対しまして市町村の負担いたしました明文がない。従いましてそれらに対しまずところの、都道府県や國の補助も出て行かないということに、修正案のままじやなるように思いますがこの点いかがでありますか。

將來考え得るといたしましても、いろいろの措置の場合があり得るわけでもありますから、それを全部網羅的に市町村の負担ということは少しく行き過ぎでないか。従いまして單なる法上の義務としての市町村の負担じやなくして、いわゆる市町村義務に基く当然の予算措置としては勿論可能であります。實際によつてそういう問題は解決をした方が適当じやないか、こうしたことでこういう形式にしたわけであつます。

ならん、雲を擡むようなど、いふことは、法文の方ではそこまで市町村長に義務付けることはできんわけであります。これは見解の相違になりますから、これで止めて置きますが、これは施行細則で細かに規定すれば、こういう範囲ということは、五項目か十項目ぐらいで範囲の規定はできると思う。この程度で質疑は止めて置きます。

す。府県によりましては、辞令を一  
にいたしまして民生委員、児童委員  
いう形式で出している府県もあるや  
聞いておるのであります。法律上も  
ういうことは可能であるというふう  
考えております。

○鷲井伊香君 それは地方にはつき  
指示はされないのでですか。地方で勝  
にさしておられるのですか。

○政府委員(小島彌雄) これは私  
方でこうせよということは、別に指  
はいたしておりませんけれども、府

○政府委員(小島鶴雄君) その名称をどうぞお聞きになりたいと申します。委員会で非常に御審議頂きました、児童福祉法というものは決定して頂いたのでありますて、漸く決定いたしまして児童福祉司といふのの名称が全國的に分りかけたところに、どうしてもこれは改正しなけれども、ならんという特別の理由がありますれば、私は姫井さんの御意見に無論反するわけではありませんけれども、

○山下義信君 これ以上見解の相違でありますから避けますが、ありとあらゆる場合と、う只今の局長の重ねての御答弁は私は承服はできません。まあ二十四條の但書の義務規定はありとあらゆる場合の世話をしろという意味ではありません。本文にそれが條文が附けてあります。看護を必要とする場合、或いは疾病、労働者、適当なる保護者のない者とか、いろいろの場合があります。看護をして、もうこの法律はそれもありまして、もうこの法律は二十二條、二十三條、二十四條の範囲であります。看護を必要とする場合と、ういましても、それは施行細則やその他の省令等によりまして御規定になりますから、雲を擱むような空漠な範囲ではない。そんな空漠な範囲でありますれば、本文の二十二條、二十三條、二十四條の但書を挿げましても、南町村長の措置の費用がありませんやつを、或る程度代つて保護をするというようになります。義務付けましたのは、限られた範囲内が想像せられるから、法律が市町村長に義務を命じておるのでありますから、今度はその費用の点になると、ありますから、どうある場合があつてどうにも

○山下義信君 これが以上見解の相違でありますから避けますが、ありとあらゆる場合と、う只今の局長の重ねての御答弁は私は承服はできません。まあ二十四條の但書の義務規定はありとあらゆる場合の世話をしろという意味ではありません。本文にそれが條文が附けてあります。看護を必要とする場合、或いは疾病、労働者、適当なる保護者のない者とか、いろいろの場合があります。看護をして、もうこの法律はそれもありまして、もうこの法律は二十二條、二十三條、二十四條の範囲であります。看護を必要とする場合と、ういまでも、それは施行細則やその他の省令等によりまして御規定になりますから、雲を擱むような空漠な範囲ではない。そんな空漠な範囲でありますれば、本文の二十二條、二十三條、二十四條の但書を挿げましても、南町村長の措置の費用がありませんやつを、或る程度代つて保護をするというようになります。義務付けましたのは、限られた範囲内が想像せられるから、法律が市町村長に義務を命じておるのでありますから、今度はその費用の点になると、ありますから、どうある場合があつてどうにも

いかお尋ねしたことあります。が、民生委員と児童委員の関係で、児童委員の立場からいいますと、民生委員は厚生大臣の辞令を貰つてはつきりしておる、ただ児童委員は民生委員を以て当てるということで、何だかもの足りないという点で、これは法文の上に明記することはできないといったしまして、政令などの取扱で、やはり児童委員としても厚生大臣の辞令書を交付する措置ができますかどうか、それを先ず伺つて置きたいと思います。

○政府委員(小島徳義君) この問題は、昨年からいろいろ、そういう府県からの御意見もあります。それは至極御尤も御意見と、いうふうに我々も考えております。民生委員と児童委員の問題については、根本問題がありますから、その関係もござりまするけれども、昨年既定の民生委員は当然児童委員になることつておりますが、今のような現行法におきまして、児童委員に辞令を出し得るかといふけれども、辞令の形式におきまして両方の辞令を出すということは、解釈上可能であるというふうに考えておりま

○姫井春ひ君 それは児童委員の舞  
というのも、御承知の通りであります。やはり児童委員としての意識をつくりさせる、自分から責任感、羞  
恥というものを強く自覚するとい  
うべきまでは、辞令書一本でも兩  
の委員名を書いてやるより、是非  
頂きたいと思います。

それから次に児童福祉司の名称の  
題であります。これは第二回國会議  
もいろ／＼論議されたのであります  
が、やはりどうもその児童福祉司と  
うことが堅苦しいような、役人よ  
うな言葉であつて児童福祉とい  
うのにそぐわない。これはまあ修正案  
として出すかも知れませんが、児童  
祉司を児童福祉委員と簡単に呼んで  
いいのじやないかと思います。その  
は如何でございましょうか。どうう  
も児童福祉司でなければいけない  
考えになりますか。委員会の意向を  
これならば、それでもいいとい  
う御承諾なさいますか。

角谷会の街審議を十分頂きましたので、この點を決定して漸く分りかけようとしたところに、又名前を変えるといふことは却つて混迷を來すのではないかとおもふるときに、今暫くこれでやつて行きたい、かよな考え方を持つております。

◎鶴井俊介君 これは少し意見に亘りますが、実施した結果どうも堅苦しくていけないというのが世間の感じ方を考え方なんですね。それを世間の好いように変えてやることは少しも差支いのではないかと、これはまあ意見ありますからそれまでにして置きます。

次は児童の年齢問題でありますがあつ十八歳に満たない者と、これは特な措置といったしましては満二十歳まで認めることになつておりますが、少法で行きますと、やはり少年は二十一歳で、更にいろいろな収容施設において、教育指導その他の措置をしまして、尙この上若干年の余裕まで、いつたようなものを置きますことが子供を社会に送り出す上のいろいろな生活指導、職業指導の面におきましても非常に都合がよい。ただ十八歳に満たぬからといって直ぐ世間に送り出さ

出なてな、とたき歳年で別、までなむ、くりう、こて名

することは、社会で十分な受入態勢もできておりません現在におきましては、やはりいろいろな收容施設におきまして適当な指導をするということも必要ではないか。そういうような点におきまして、これを二十歳まで延ばす、少年といふものは二十歳までだといふ、この少年法と同じ行き方にしておきまつります。では、どんなものでございましょうか。

○政府委員(小島篤雄君) こういう御意見は私もよく分るのでございまして、二十歳にするという考え方もありますが、併し児童福祉法の今一番問題になつておる施設におきまして、今のように十八歳から人によつて二十歳にする規定を改正案として出しておりますから、この程度において問題の解決ができるのではないかと、こりうふうに考えまして、どうしても二十歳にしなければならんということがありますれば、將來又研究いたし

○姫井伊介君 身体の不自由な子供の收容施設は療育施設で考え方をしておるがとも思いますが、殊にそういった身体不自由な子供に対しましては特別な施設があつてもよいのではないか。從いまして、この児童の福祉施設の中にこの盲ろう、あといふものを入れられましたが、そういう意味におきましては、そういう児童を收容する施設を加えることが必要ではないか。先程申しましては、特に生活指導をやつて行かなければなりませんので、從来の療育だけではなく物足らないような気がいたしましたが、その点如何でしょうか。

○政府委員(小島篤雄君) 今回の盲ろう

うあ施設というものを療育施設から離したという意味は、從来の解釈では、

療育施設というものは見るうあ施設も入つておつたのであります。が、療育施設

といふたのでありますと、或る程度療育可能でありますと、或る程度治療が可能であると

いうことが療育の観念ではないか。盲

ろうあになりますと、もうちよつと治

すのがなかへ困難であるというよう

な解釈上の異義がございまして、それ

で特にこれをとり出して盲ろうあ施設

といふようにいたしました。今おつしやいましたような肢体不自由といふ

問題は、當然療育施設に入つて来ると思

います。

○姫井伊介君 療育施設はこの四十三條に身体の弱弱な児童に適正な環境を

與える、又は身体機能の不自由な児童

を治療すると共に必要な知識技能を與

えますか。

○政府委員(小島篤雄君) 療育施設を

分けますと、令官らよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 更に児童福祉という点

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 児童施設や虚弱児施設、こりうふう

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

與えるものじやないか、この点につき

まして一つ。

○政府委員(小島篤雄君) 御意見非常

に分るのでありますと、児童福祉法が

規定の形式から行きまして、少し特殊

な規定を示しまして、子供

のなかへ困難であるというよう

な解釈上の異義がございまして、それ

で特にこれをとり出して盲ろうあ施設

といふようにいたしました。今おつしやいましたよな肢体不自由といふ

問題は、當然療育施設に入つて来ると思

います。

○姫井伊介君 療育施設はこの四十三

條に身体の弱弱な児童に適正な環境を

與える、又は身体機能の不自由な児童

を治療すると共に必要な知識技能を與

えますか。

○政府委員(小島篤雄君) 療育施設を

分けますと、令官らよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 更に児童福祉という点

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 児童施設や虚弱児施設、こりうふう

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

の環境をよくすると共に、子供自身から自発的にそういうことにつき

まして一つ。

○政府委員(小島篤雄君) 御意見非常

に分るのでありますと、児童福祉法が

規定の形式から行きまして、少し特殊

な規定を示しまして、子供

のなかへ困難であるというよう

な解釈上の異義がございまして、それ

で特にこれをとり出して盲ろうあ施設

といふようにいたしました。今おつしやいましたよな肢体不自由といふ

問題は、當然療育施設に入つて来ると思

います。

○姫井伊介君 療育施設はこの四十三

條に身体の弱弱な児童に適正な環境を

與える、又は身体機能の不自由な児童

を治療すると共に必要な知識技能を與

えますか。

○政府委員(小島篤雄君) 療育施設を

分けますと、令官らよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 更に児童福祉という点

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 児童施設や虚弱児施設、こりうふう

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

○姫井伊介君 今言つたよな肢体不自由

に実際問題としては運営されるわけ

です。

かりでなく、生れ出る子供の健康のためにも絶対必要であるということで、

できるだけ速かにそういうお医

者さんとか助産婦の診断を受けるとい

うことを指導いたしてるのでござい

ますので、こういうこともその精神の

一つの現われでありますて、これは結

局児童福祉の面から、妊娠した場合に

絶対に我々はお医者さんの指導を受け

ることが必要である、こういう考え方

に則りまして相当やつて見たいと思いま

りますが、今のお話はそれをもう少し

法律的に規定したらどうかという上

りますが、詳しい様式を示しまして、

各府県におきましてそれぐその精神

ありますとか、母親クラブの結成であ

りますとか、そういうようなことにつき

申しますが、将来研究して行きたいと思いますが、このお話をそれをお聞きな

うとしてもできないというふうに

いに将来研究いたして見たいと思いま

す。

○姫井伊介君 次に第二十條におきま

して、「妊娠した者は、速やかに、医師

又は助産婦の妊娠証明書を添え」とあ

りますが、先には、この医師若しくは

助産婦の証明ができるものは添えな

くていい、というふうなことが書いて

ある。妊娠した者が速かに証明書を以

て届けるということは、非常に億劫で

又本人も余り好まないことだと思います

が、從来こういふなことが手続

上非常に煩瑣で面倒だという声が随分

多いのです。従つて妊娠したと

いうことは事実に基くのでありますか

これはよく分りますが、「及び児童厚生

施設に直接の關係を持つてない乳兒

院の補助は、この対象から除いてある。

これはよく分りますが、「及び児童厚生

施設の設備に関するものについては、

施設の設備に対する補助をしないこと

この限りでない」ということで、あるいは

この問題が規定されています。

これはよく分りますが、「及び児童厚生

施設の設備に関するものについては、

施設の設備に対する補助をしないこと

になつております。ところがこの間も

これは質問したのですが、これ

は第四十條で明瞭に規定されています。

これは第四十條としてありますて、相

て不良化防止の面をはつきりこれに出

すことが、児童福祉法に明るい部分を

いたしましたが、どうお考えになりますか。

○政府委員(小島篤雄君) 今私の方と

診断といふのは、妊娠のいわゆる健康

妊娠初期におきまして、いろいろ疾

病の場合治療するといふことが、医学

においては、第三章の児童福祉施設

として、明らかに第四十條に児童厚生

施設の説明が附いております。それで

これが第四十條としてありますて、相

当量く見ておりましてその後の四十一条、四十二條、四十三條というふうにずっと続いておりますが、大部分初めの方に強く語つておられるのであります。この児童福祉施設として明らかに認めておるところのこの第四十條の児童厚生施設といふものに対しても、補助をしないということになつたのは、どういうわけでそういうふうに除いておられるのか。除くのなれば何故に児童福祉施設の第四十條に強く語つておられるか。この問題をもう一つお伺いいたします。

い範囲の厚生施設、そういうものが全國的には相当の数が設置されまして、その報告は我々の方へ参つておりますて、約一千五百の数が府縣、市町村、大きい小さいいろいろござりますけれども、そういう報告が参つて来ておられます。そういう意味におきまして、地元において相当費用がかかる場合もありますが、大して費用がからなくて済むような場合もござります。従いましてこの問題につきましては、相当地域の事情によつて違ふ場合もございますし、又一番この問題は府縣とか市町村におきましても、非常に熱心に考えて実施されておるのであります。將來我々といたしましても、この問題を政府において義務として補助するかどうか、研究問題ではございますけれども、できる限り政府においても予算的な措置が講じ得るよう努力いたしたいと考えております。ただ法律的にこれを義務として必ず出さなければならんものとするということは、今日の実情において、果してそれが適当であるかどうかということにつきましても、一つ研究を要する問題ではなかろうか、かように考えております。

て必要なものが漸次できつたあることの情勢を厚生省はよく知つておられる。それならば何故に今度の修正の場合に、この児童厚生施設を補助の対象から除くとということを、削除にならなかつたかとしあことに對しましては、只今の御答弁では満足いたしません。この児童厚生施設はもはや論議の余地はありません。限られた保育所或いは養護施設によりますと、相當これも数は足りませんが、子供全体の悪化の防止、或いは又保育所につけて児童の厚生施設もやるといふ場合に、子供の遊び場所が極めて都市におきましては困難でありますとして、自動車の通る交通路の方で遊ぶといふような問題からいたしまして、どうしても都市におきましては児童厚生施設といふものはなくしてはならんものでございます。それであらからしてこの児童厚生施設に対しては、政府といたしましても、本腰を入れて必置條件にさすべきであると思ふのであります。そういうものは都市におきまして、子供の遊び場所を中心の適当なところへ持える。そり廣いところには及ばないが、到るところへ緑地帯を作つたり廣場を作つたりして、子供が学校から戻つてもやつくり遊べるように、そらして悪金みを考える余地はないように子供にさよやくの競技、集団競技などをさせて、子供の悪化の防止並びに保育の完全を圖るといふとの設備は、一々の施設のところへされる乳児院或いは保育所或いは母子室というよろな、そういうふうなもの。その上方の児童にまでも及ぶことの、非常に廣汎な衛生問題から、風邪問題から、悪化の防止からあらゆるものを含んで来ておるものであります。

だから児童厚生施設といふものは、今後極めて重要な立場におけるのであります。すでに児童福祉施設の中の四十五條として明らかに出ておる。出ておるならばそういう情けないことをお言いにならぬうちに、これも補助の対象にちゃんと認めからなさつて然るべきものだと思つてあります。若しお取りにならなければ、あなた方がお取りにならんのは、早晉性がないのだ。それはあなた方が大体卑怯なんだ。だから予算をさつさとお出したなつて、予算であなた方が喧嘩をなさらなければならんことである。我々から突つ込まれるようなことは仕方がない。あなた方はもつと考へなければならん。これは意見になりますから、これ以上は言いませんけれども、今の御答弁では満足いたしませんということだけ申上げておきます。

よつて届出をせいというのであります。が、十日ではとても今までの施設が届出をようしない私は思います。届出期間が余り短くて、十日以後になつたならば……、経営者が病氣の場合もあるし、旅行しておる場合もあるし、この法律は公布の日から施行するとなつておる以上は、抜撻的にこれは出て来るものであつて、我々こそ知つておるけれども、一般民衆は知らない。知らぬつたらどうしますか。これは少くとも私は三十日くらいにしておかなければならんと思いますが、どうしてこんなふうに冷やかな十日といふうに同情のないような日にお決めになつたのか。それをお聞かせ願いたいと思います。御答弁を願います。

が大体限られている関係でございます

るが、厚生施設になりますと市町村の子供全体が非常に恩恵を受けるわけ

で、それは恰も小学校が全体の市町村

民の便益となると同じ意味におきまし

て、市町村といらものは非常に関心を

持つております。そういう意味におき

ましては、これは当然市町村がなすべ

きものである。若しこれが、今我々も

予算の措置が分りませんのであります

が、ここに國が補助を義務として出す

ということを仮に規定いたしまする

と、府県とか市町村では折角今市町村

の熱意でやろうというものが、國会から

補助が来なければならぬということ

になりまして、却つて折角市町村がや

つておるという厚生施設の熱意

が、規定の性質上、國から補助が來る

補助が来なければならぬということ

になりますと、それ

が十分厚生施設につきまして確實に出

し得るということになれば別でござい

ます、そういうことが見通しがつか

ないでやりますと、却つて市町村自身

の強力でやるということの熱意を冷ま

す結果にならないがと我々心配してお

りまして、その点は將來の予算全体の

見通しを勘案し、又厚生施設といふも

のが市町村に非常に重大問題であります

して、市町村が非常に関心を持つて、

市町村住民の全体の福祉施設に対する

考え方をこの際齊起しますには、却

つて少い費用を補助するよりはその方

がうまく行くのではないかといふよう

な考え方もございまして、この際今度

の改正した法案に入れるということは

如何かと考えまして、実は躊躇いたし

た次第でありますて、そういう点もお

長でおやりになつてはしようがないで

すな、その点は……

含み願いたい。かように考えておりま

す。

○中平常太郎君 只今の局長の御説明

は、その市町村の施設するところの熱

意をお考へ方であります、これは少

し補助があつた方が熱が出るので、そ

れは一つもないということでお任せさ

れた方が熱意が減るのであります。それ

はあなたの御解釈は、出されるが嫌だか

らお出しになりたくないというお立場

は、却つて國から費用が来るのじやな

いが、規定はなつてゐるじやないか、

を出すという規定になりますけれど、予

算がこれに伴わなかつた場合において

算がこれに伴わなかつた場合において

から考へたことであつて、買う方の市

町村は、十万円要るところに一万円買

つても、今年は二分の一も出ないか

ら、或いは十分の八も出ないから、ま

あ少いけれども一万円出るという、そ

れは都合によつて思う程出せない場合

でも、少しの場合でもそれが種になりま

す。よく普通いいます、『さんしようと』

うがあるからお手しをするというこ

とがあります。砂糖が来ると直きに餅

とくといふことをいいます。それはそ

の砂糖以上に材料は要るけれども、砂

糖で餅の考えが起き『さんしようと』お

すしの考へが起ります。だからあなた方

が見章厚生施設もやうど、いふ場合

は、必要な調査をして、政令では或る

程度細かく基準もできるのであります

から、その基準によつて適当にやるも

のは、少しでも補助、今年は規則通り

は通せないけれども、これくらい出し

てやるというならば、喜んで施設に掛

るから、あなたの今おつしやつたふう

に、出すことにしたら市町村の熱意が

○中平常太郎君 局長の御熱意も分る

方であります、そこまで改めて貢うことに努め

て、義理で施設の方にも出すという考

えで、義理で施設の方にも出すという考

えをお話しになつたことがあるのです

ますけれども、今の財政当局のこれは

非常に強い見解がございまして、義務

として國が、大蔵省が金を出すとい

ますけれども、このことは非常に強い反対がござ

ります。我々としたしましては、中平

委員のように努力はいたしましたけれど、予

算がこれに伴わなかつた場合において

算がこれに伴わなかつた場合において

から、市町村はやらなくてもいいとい

うことになることを我々は心配してお

ります。これは我々としても少し財

政当局にもよく話しまして、こういう

問題につきまして國がせひともそい

う中平委員のおつしやるよに二分の

一の補助ができなければ、四分の一な

がら四分の一でもいいから相当國が義

務として補助をして貢うことにつきま

して、大いに國が持つて貢うことにつきま

で出すわけではなく、政府一致して出す

わけありますから大蔵省は関係省の

贅成を得て初めて出すわけで、その意

味におきまして今回の改正案におきま

すたとく論議しておる問題であります

か、我々としては最善の努力をいたし

ておる次第であります、大蔵省の建

前としてはまだ財政的の見地からいる

いろいろ理由がありまして、相当難色を示

しておる、かように考へております。

○中平常太郎君 それは何回となく御

折衝になつたといふ話をありますけ

れども、時勢が急テンポであります

て、この児童の厚生問題といふものは

殆んどもう兩期的に概念が運つて来て

おりまして、ここ五年前や何かのこと

は今日一つも問題にならん。去年のこと

と一年前のことが大変な違いであり、

すでに人口問題でも一年前ではこれ程

やかましくなかつたが、今日人口問題

はあれ程やかましくなつて産児制限の

問題が出て来る。二三年前までは止め

らこの修正案をお出しになるときだ、

何も大蔵省に御相談になることはなか

つた筈ですが、この修正案をお出しに

と、これが御意見の通りに研究してみたい。私共

いたしまして、厚生施設につきましてはそ

うが却つて不適当であると、將來は

生施設を非常に重要視しておることだ

けを一つ御了承を願いたいと思いま

るが、そうすると大蔵省の

無論法律案

のあります

方におきましては厚生省單独

を出す場合におきましては厚生省單独

として、義理で施設の方にも出すとい

う考へをございまして、この際今度

おやりになつてはしようがないで

すな、その点は……

○中平常太郎君 局長の御熱意も分る

方であります、そこまで改めて貢うことに努め

て、義理で施設の方にも出すとい

う考へをございまして、この際今度

おやりになつてはしようがないで

すな、その点は……

まし……

は私も全く同感であります。総理大臣の御出席の問題はどうなつております

か委員長御承知の点を御説明願いたい。且つ又児童福祉法の審議に關しましては本員はこれは重大な法案でありますから、できるだけ大臣が出席するよろしくお願ひいたしましたところ、

当時厚生大臣もこれを御承認したのであります。まだ一度も審議中には顔を出さない、総理大臣の出席なり厚生大臣の出席なり委員長から御交渉下さい。されど、その点どうお考えになるでしょうか。委員長の御見解を聞いておきたい。

○委員長(櫻本重蔵君) この問題は皆さんの御希望通り、今まで運んで参りましたが、総理大臣の出席は要求がある程度出席を求めていたが、その都度総理大臣はいろいろな事故もあったといふ理由によつて出席されなかつた。更にできるだけ早い機会に総理大臣みずから出席せられるようというのを申傳えておきました。それに対して、日を私ちよつと忘れましたが、或る日の午前十一時三十分には出席するということを事前に総理大臣の方から通知がありましたので、それによりまして委員会を開会する準備を進めておつたことも御承知のところであります。ところがその日になりまして、突然又総理大臣から約束はしたけれども、他の要件のために出られないとしましてこの点は甚だ遺憾に存じておる次第であります。今後のことにつきましては皆さんの御意思の通り

に委員長は取計らつて參りたいと思います。

○山下義信君 厚生大臣の出席は私はよく要望しておきましたが、大臣も了承するでしようか、その点どうお考えになりますか。

○小杉イチ君 ちょっとあと戻りで

ます。

○山下義信君 厚生大臣の出席は私はよく要望しておきましたが、今後は大臣の出席があるかないかということを念を押された上で委員会を開いて頂きたい、この児童福祉法に関しても……

これは一委員の発言であります。

○山下義信君 公開の席で了解し合つた事項については重大なお取扱いを願いたい。ただ聽き流し、こういうことがたび々あることは議員の発言権というものが監視されていていませんと思ひますので、厚生大臣は是非ともできるだけ出席することを要望しておきました以上は、厚生大臣の出席がなければ児童福祉法案の審議はしないくらいの意氣込みでお当たりを願いたい。これは重ねて要望いたします。

○中平常太郎君 それは委員会の審議

に委員長は取計らつて參りたいと思

います。

○山下義信君 これは何故か

申しますと、児童とか又は妊娠婦を取扱うところの仕事に對してそういう

いきめしい名前はいけないということ

を私は言つたのでございます。それが大蔵に是非ともできるだけ出席するこ

とを要望しておきました以上は、厚生大臣の出席がなければ児童福祉法案の審議はしないくらいの意氣込みでお当たりを願いたい。これは重ねて要望いた

いきめしい名前はいけない

といふことです。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○山下義信君 尚質問は残つておりますが、本員に関する限りは、これ

がおつしやつた児童福祉司という文句

であります、これはそのとき申しましたことは、神主さんのような気がす

る、又ものを司るというようないかめしい氣分がするから、これは廃止しておきたいといふようにそのときにわ願いしたのでござります。これは何故か

申しますと、児童とか又は妊娠婦を

取扱うところの仕事に對してそういう

いきめしい名前はいけない

といふことです。

○小杉イチ君 ちよつとあと戻りで

ます。

○山下義信君 これが外に御質疑は

ありますか。

○山下義信君 外に御質疑は

ありますか。

○山下義信君 一應本日はこの程度で

質疑が済みますれば、もとより討論に入ります、いろいろ皆さんの御意見もあろうかと思います。本案の審議を進行する上におきまして、何か修正点に対しまして、更に修正の御意見のある方がありましたならば、これは委員長の手許へ各委員がお出し願うとか、何とかおまとめにつきまして皆さんに御註文下さったならばいいではないかと思います。これをお願い申上げて置きます。

○中平常太郎君 もう一つお伺いした

のですが、「丁度谷口委員がおいでになつておりますが、第二十條のことですか」とおまとめにつきまして皆さんに御註文下さったならばいいではないかと思います。これをお願い申上げて置きます。

○中平常太郎君 もう一つお伺いした

のですが、「丁度谷口委員がおいでになつておりますが、第二十條のことですか」とおまとめにつきまして皆さんに御註文下さったならばいいではないかと思います。これをお願い申上げて置きます。

○中平常太郎君 もう一つお伺いした

のですが、「丁度谷口委員がおいでになつておりますが、第二十條のことですか」とおまとめにつきまして皆さんに御註文下さったならばいいではないかと思います。これをお願い申上げて置きます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのであります。そ

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠

分娩手帳にはもう皆で

ありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

ができる、特別に外の証明書とかいう

必要は全然ないと思ひます。

○中平常太郎君 そうでしよう、妊娠分娩手帳にはもう皆でありますか。

○中平常太郎君 まだ早い時期から妊娠の診断をして貰

いまして届出まして、妊娠手帳とい

うのを貰つておるのは十分代用

といふことが大きいのであります。ところがその資格を喪失するの範囲内で各省大臣は動いておるのあります。根本の方針は経理大臣から出て來るのでありますから、あなたのおつしやつたような大官でもい、局長でもいいことは、それは事務的問題ならそれでよいが、大事な根本方針を突く場合にはそういうものじやありません。その点は十分よくお考え下すつたら、議員の性格といふものはそんなに弱いものじやありません。

○草薙議員(河合庄平君) 先に申上げましたように本日はこれで質問を打切つて後は懇談にお願いします。

○委員長(河合庄平君) 草薙委員の御意見に異議ありませんか。

〔異議なし〕賛成と呼ぶ者あり

○委員長(河合庄平君) では休憩いたします。

午前十一時四十三分休憩

午後一時三十四分開会

○委員長(河合庄平君) 午前に引き続き委員会を開会いたします。午後は船員保険法等の一部を改正する法律案を議題にしてその審議を進めます。質疑を続行いたします。

○姫井伊介君 現行法の十九條の三行目の「其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス」という意味は、その日からその被保険者の資格を喪失するという意味でございまして、普通の場合には死亡した日、或いは船舶所有者に使用せられざるに至った日の翌日から、その被保険者資格を喪失するのです。

○説明員(河合庄平君) ええ、船員法に

あります。ところがその資格を喪失する、喪失して同時に取得するというような日は、翌日といたしますと、ここに喰違いが起りますので、即ちその日より被保険者の資格を喪失する、こういう意味でございます。普通死亡いたしましたと、翌日に被保険者資格を喪失する。或いはやめましたその翌日に被保険者資格を喪失する。ところがやめました日又新たに会社に雇われたというような場合は、その日にやめたことにしないと資格が重複するものでございますから、こういう場合は稀有なことがあります。まあ法律的に矛盾のないようにするために、こういう規定にしたのであります。

○姫井伊介君 二十二條の第三項において「脱退手当金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間ハ之ヲ合算セズ」その手当金を貰つたためにこの期間が合算されない、むしろ手当金を貰わぬ方が再び被保險者となつた場合に、従来の給付に対する有効期間が合算される、その方が得たということになりますと、では私はこの手当金を一遍お返しいたしましたがどういふ意味でしようか。

○説明員(河合庄平君) 船員保険の福祉施設といたしましては、疾病予防と相違の金額が使われるようになりますが、その施設の内容、その種類といつたようなものの概要を御説明を願います。五十七條の二、福祉施設、これには支給、そういうことをやつております。それから船員保険の長期給付を完全に支給せしめるために、いろいろの受給者としての手続をこの方で代行しております。そういうようなことをやつております。

○姫井伊介君 今お話を聴きますと性病者が相当多いようですが、それがなんか統計が何かありますか。或いは又その治療の経過によつてどのくらい治療しておるか、或いは蔓延しておるかといふような実態を現わすよ

○説明員(河合庄平君) 審議会の方は船員保険の根本原則を決めるようなまことにあります。これは政令に譲つていません。六名の委員といふように規定したのですね。どうしてこれを一致させないか。

○姫井伊介君 船員の性病関係は、或いは社会的方面から相当考えて行かなればならんと思いますから、それと二十八條の五と七ですが、この診療報酬算定協議会、若しくは保険診療協議会にはただ同数を委嘱するというだけ

で、人數は決めてありませんですね。保険審議会の方は、船員保険が単独に持つており、診療報酬算定協議会と

あります。ところがその資格を喪失することは、でかすようにしてはいけないのですか。どういう関係でできないことになつておるのですか。

○説明員(河合庄平君) 事務上とかい

う意味でございます。普通死亡いたしましたと、翌日に被保険者資格を喪失する。或いはやめましたその翌日に被保険者資格を喪失する。ところがやめました日又新たに会社に雇われたものだと思うのです。

○姫井伊介君 然るに、こちらの方はに温泉療養所といふもの設けておりまして、船員保険におきましたも、それと契約いたしまして、不具癡疾になつた者の後療養、或いは義手、義足の支給、そういうことをやつております。それから船員保険の長期給付を完結するため、いろいろの受給者としての手續をこの方で代行しております。そういうようなことをやつております。

○説明員(河合庄平君) これは政令で規定しております。

○姫井伊介君 分りました。第三十三

非常に過激な労務に携つて疲れましたことは、でかすようにしてはいけないのですか。どういう関係でできないことになつておるのですか。

○説明員(河合庄平君) 改正法では規定しております。

○姫井伊介君 船員保険審議会などはいろいろな手続の関係で只今やつておりますが、理窟から言つてやつて差支えませんが、理窟から言つてやつて差支えられないわけであります。

○説明員(河合庄平君) これは政令で定しております。

○姫井伊介君 船員保険審議会などは具廢疾になりました者につきましては、陸上の厚生年金の外郭團体たる厚生團、登別、湯ノ川、そういう方面に温泉療養所といふもの設けておりまして、船員保険におきましたも、それと契約いたしまして、不具癡疾になつた者の後療養、或いは義手、義足の支給、そういうことをやつております。それから船員保険の長期給付を完結するため、いろいろの受給者としての手續をこの方で代行しております。そういうようなことをやつております。

○説明員(河合庄平君) これは政令で規定しております。

○姫井伊介君 船員保険審議会などは委員各六人を以て組織すると書いてあります。これは政令に譲つていません。十八條の七は社会保険診療報酬算定協議会。

○説明員(河合庄平君) これは政令で規定しております。

○姫井伊介君 船員保険審議会などは委員各六人を以て組織すると書いてあります。これは政令に譲つていません。十八條の七は社会保険診療報酬算定協議会。

○説明員(河合庄平君) 審議会の方は船員保険の根本原則を決めるようなまことにあります。これは政令に譲つていません。六名の委員といふように規定したのですね。どうしてこれを一致させないか。

○説明員(河合庄平君) これは政令で規定しております。

○姫井伊介君 船員の性病関係は、或いは社会的方面から相当考えて行かなればならんと思いますから、それと二十八條の五と七ですが、この診療報酬算定協議会、若しくは保険診療協議会とか、診療協議会といいますものは、健保協議会と船員保険と合体した形になつておりますので、そういう意味で政令で決めるにこしております。

その被保険者資格を喪失するので

ではそれはできません。

養所というようなものを設けまして、

外の方を見ますと、やはりそれぐ  
れ人數は減りてありますんですれ

○姫井伊介君 分りました。第二  
で決めることにしております。

三

條の九第三項第一号ですが、その収入の一回分に相当する額から五円を控除する、この五円という根拠はどこにあるのですか非常に貨幣価値が今日のように下落した場合に、五円という数字が妥当であるかどうか。

とと、それから保険料を同じくするかどうかという点が二つ問題でございまして、十年の期間を以て給付を貰う以上は、保険料を上げなければ十五年と同じようなことにならないわけですから。そこで保険料を上げる場合など

ます。理論的に申しますると保険料さえもう少し取ればそういうことも考えられるわけでございますが、今日の情勢において保険料を据置にいたしました関係上、そういう結果になつたのござります。

○委員長(深木重蔵君) 私から一、二お伺いいたしますが、一部には今度の船員保険法を改正することによつて、保険料率が上つて來たが、かような高額な保険料金はその負担に耐えない、船主側の方でそういう方がいる。こう

差線につきましては現在まで折衝いたしておりますところによりましては、関係方面におきまして強い反対意見がございまして、非常にその実現が困難な状況にある次第でございます。

○説明員(河合庄平君) これはえらい根拠はないのござりますが、五円程度、少しでも得さそり、金額は少しでもよくしようという考え方から、陸上の健康保険でもそういう意味で、陸海一

多くのするかという点で、いろいろ考へた結果、今日の船主または船員の経験から見まして、保険料を上げることはどうも適当でない。殊に十年先の養老年金の問題でございますので、そ

○姫井敏り君 一年増すことにどう  
と、陸上と同じことになつてします  
が。  
○政府委員(宮崎本一君) さとうだい  
さします。六日になります。

いうことも聞いておるのであります  
が、その辺の事情、それからこれらの  
所管でありまする運輸省としては、こ  
の船員保険法の今度の改正に対し、  
どういふふうにこれを見ておられます

お伺いしますが、この改正法案を提出せられるまでの間に何か運輸省との間において詰合などなさつたことがございましょうか。

致にすると、いふだけで深い意味はあります。  
○姫井重吾　この保険の十五年と十年との関係であります。が、十年になりましたものは保険給付が二ヶ月分、十五年のものは六ヶ月分、この差が金なりひどいじゃないか。即ち十五年と十年とは三分の二関係になるので、四ヶ月というものが妥当ではないかという考え方も多いのですが、その辺の理由と、今一つは一年を増すごとに六日を加算する。これはこの前の健康保険なんかでは、たしか二日間の加算か何とかになつてゐるんですが、四日が余り少いということをちよつと質問したが、それとこれとはちよつと違つて、のではないかと思いますが、その辺の關係をお伺いいたします。

れよりも給付を減らした方がよいのではないか。こういう見地に立ちまして、保険料は外の船員と同じ保険料を取り。而して十年で給付を始めるところに、幾ら出したらよいかといふことを、いろいろ數理計算をいたしました結果、普通の人の半分でよいじゃないか。普通は四ヶ月であります。今姫井委員は六ヶ月と申されましたけれども、四ヶ月でございますので、その分の二ヶ月を拂う。こういうことにたたのでござります。

○姫井伊介君 陸上は少いのですね。  
○政府委員(宮崎本一君) 陸上は四日  
で船員が六日です。  
○姫井伊介君 多いのですね、多い方  
がいい。  
○小杉イ子君 ロシア辺では女の船長  
なんかいるということを聞きますが、  
日本では婦人のそういう人がございま  
すかどうか。婦人といふものは誠に移  
動の激しいものなのでございまして、  
その保険料金に差支えると思いますが  
どうでしようか。そういう移動の激  
しいものでございますかどうか。その点  
で保険金の方は、給付の点が違つて來  
るのではないか。

○政府委員(岡田権一君) 今度の船員保険料引上げになりまする船主の負担額は、およそ四千四百万円と承知いたしておるのであります。これを船主側が負担でき得るかどうかというお尋ねでござりまするが、本年度の船舶運営会から船主に支拂ひまする備船料におきましては、この保険料引上げによると負担分は計上いたしておりません。現在船主が負つておりまする備船料の中でこの四千四百万円を負担し得ることが可能なりや否やにつきましては、いろいろの考え方をとり得るだろりと聞いていますが、この備船料は当初私共が船主側に対して妥当であると考えておきました額に対し、二割強の削減をさ

○政府委員(宮崎本一君) 漁船のこの  
養老年金の期間でございますが、一般  
のものは十五年を以て満期となるわけ  
でござりますが、漁船につきまして  
は、十五年勤めるだけの勤務の期間が  
ない、と、臨時的な勤務等が多くて、な  
いというような根拠からこの改正を考  
えたのでございますが、その際におき  
まして、給付を他の汽船その他の乗組  
員と同じようにするかどうかというこ

あります。それと同じ歩み方ができれば、思つておりましたけれども、保険経済の教習計算上から参りまして、それをいたしますと、他の漁船以外の船員の保険料を食うことになりますので、これが漁船を縮したことによって、汽船等の乗組員に影響を與えることは好ましくない、という関係から、このステイド制の加算額ということをやらなかつたのでござる。

つておる船員でございます。奥さんでありますとか、娘さん、そういう方が船員として取扱われております。数はやはり二、三千はおられたんではないかと思いますが、船員法の対象になつておる機帆船でござりますと、他の男の船員と同じような取扱いになつて、それらは常住船に乗りこんで生活をおられる、そういう方がござります。

された経費が行つてゐるのとございき  
す。従いまして船主のこの船燃料料によ  
る経済といふものは非常に苦しいもの  
と、かよううに考へております。それか  
ら更に運営会全体の経費を差額つて、  
船主負担分を考えることができるかど  
うかにつきましては、七千九百万円の  
予備費を運営会が持つております。  
の運営会の予備費を差額することが考  
えられるのでござりますが、これらの  
られた

いうような議論もございまして、只今  
の船組運営会の問題等については別途  
運輸省等で考慮されて然るべき問題で  
はなかろうか、こうしたことで委員会  
を済まして、それから両者の合議  
の結果、関係方面とも了承を得て提出  
した次第でございます。

○委員長(東本重蔵君) こういふ法案  
を提出するにはそれべく閣議の決定を  
みていくと思うのでありますか、その

第九部 厚生委員會會議錄第二十四號 昭和二十四年五月十七日

閣議においては運輸大臣も勿論これに同意したと思うのであります。その間の事情を明らかにして頂きたい。

○政府委員(宮崎本一君) これは同意を経て出しております。

○委員長(塚本重蔵君) 尚今日の社会情勢からみて、陸上の保険と同様に、船員保険につきましても、この程度の改正を行わなければ今後の船員保険の運営といふものはできないと考えられますか。

保険料率を上げないと運営することが不可能であるかどうか、その点の見通しについてもう一度伺つて置きたい。

○政府委員(宮崎本一君) 先般も申上げましたように今日の船員保険におきましては、厚生年金保険の分と失業保険の分等は別問題として、健康保険に相当する分、労災保険に相当する分といふものは、疾病保険でございまして、治療費の高騰に対しまして、賃金がそれに比して増しておりません關係上、どちらとも現在の保険料率をもつては、この短期保険を賄い得ない状態になつておるのでございまして、健康保険に相当する分につきましては、今回御改正願つておるのでござりますが、これを改正せずに参りまする

までのところ、厚生年金保険、失業年金保険に対する分につきましてはございます。併し失業保険は今後

剩余が出ておりますけれども、厚生年金は御承知のように養老年金の積立金でございます。併し失業保険は是非お願いしたいと存しております。

○委員長(塚本重蔵君) 尚今日の社会情勢からみて、陸上の保険と同様に、船員保険につきましても、この程度の改正を行わなければ今後の船員保険の運営といふものはできないと考えられますが、保険料率を上げないと運営す

ることが不可能であるかどうか、その点の見通しについてもう一度伺つて置

きたい。

○政府委員(宮崎本一君) 先般も申上げましたように今日の船員保険におきましては、厚生年金保険の分と失業保険の分等は別問題として、健康保険に相当する分、労災保険に相当する分といふものは、疾病保険でございまして、治療費の高騰に対しまして、賃金

がそれによりまして増しておりません關係上、どちらとも現在の保険料率をもつては、この短期保険を賄い得ない

状態になつておるのでございまして、健康保険に相当する分につきましては、お

ども、これを改正せずに参りまする

と、保険経済がバランスを失すると思

うのでござります。厚生年金保険、失業年金保険に対する分につきましてはございます。併し失業保険は今後

の見通しの問題にかかつておりますので、これらも融れ難いような状態にございますので、保険料率の改訂を是非お願いしたいと存しております。

○塚井伊介君 運輸省にお伺いいたしましたが、現在船員法によりますと、三十トン以上の漁船の乗組員が、船員法に規定されてゐるということを聞きました

したのですが、それ以下の船員に対しましてはこの保険が適用されない。両方面から考えますと、一つは保険経済を幾つか緩和するという立場からこの被保険者の数を多くすることが妥当ではないか。今一つは三十トン以下の漁船乗組員もやはり保険に均霑せしめる

法があります三十トンの制限というものをもう少し緩和いたしまして、多くの被保険者を得て、従つて保険経済の運営にも便利にし、被保険者の範囲も拡大して、社会福祉の均霑面を拡げて行くというふうなことについては、お

考へはございませんか、どうですか、それをお尋ねいたします。

○政府委員(山口傳君) 只今のお話を被保険者の対象を廣やしまして成るべく多勢で求るということは、御尤もだ

と思ひますが、今までのやり方で船員法の対象船員を差り對象としてス

タートしておる。御趣旨の点結構だと

思ひます。御趣旨の通り持つて行きますのに

大して参りまして、現状のところそこで、今後の研究に待たして頂きたいと

思います。

○小杉イ子君 この間伺つたんで

して止つておるのでございます。これを

妥当であるかどうかの範囲の決め方

を考えはございませんか、どうですか、それをお尋ねいたします。

○政府委員(山口傳君) 只今のお話を

被保険者の対象を廣やしまして成るべく多勢で求るということは、御尤もだ

と思ひますが、今までのやり方で船員法の対象船員を差り対象としてス

タートしておる。御趣旨の点結構だと

思ひます。御趣旨の通り持つて行きますのに

大して参りまして、現状のところそこで、今後の研究に待たして頂きたいと

思います。

○谷口彌三郎君 質疑を終りまして、

討論を省略いたしまして、直ちに採決になりますよう願います。

○委員長(塚本重蔵君) 谷口委員の動議に、御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○委員長(塚本重蔵君) それでは討論を終結いたします。直ちに採決に入る

ことに、御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○委員長(塚本重蔵君) 御異議ないも

のと認めます。これより船員保険法等の一部を改正する法律案について採決いたします。本案につきましては衆議院で一部修正が行われております。衆議院修正のものをもつて原案といたします。衆議院修正通りこれを原案として可決することに御異議ございませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり」

○委員長(塚本重蔵君) 御異議ないものと認めます。全会一致と認めます。

○委員長(塚本重蔵君) つきましては、委員長の中頭報告の内容は、本院規則第百四條によつて、予め多数意見者の承認を得なければならぬことになつておりますが、これは委員長において、本案の内容、本委員会における質疑應答の要旨、討論の要旨及び表決の結果を報告することにして、御承認を願うことに御異議ございませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり」

○政府委員(宮崎本一君) 今後は、農民よりか短命であると聞きましたが、そういう証拠が差つております。これが、一杯でも食べられるほど食べなければならん日もあつて、魚ばかり食べる漁夫が、どうも命が短いと見受けます。

○政府委員(宮崎本一君) 今後は、統計はないそちらであります。

○委員長(塚本重蔵君) この程度で質疑を打切ることと、御異議ございませんか。

多数意見者署名  
今泉 政喜 中山 薩彥  
黒川 武雄 草葉 隆圓  
谷口彌三郎 山下 義信  
姫井 伊介 小杉 イ子  
井上なつゑ 中平常太郎

○委員長(塚本重蔵君) 御署名渡ればないものと認めます。本日はこれを以て散会いたします。

午後二時十一分散会  
出席者は左の通り。  
委員長 姫井 伊介君  
理事 塚本 重蔵君  
今泉 政喜君  
谷口彌三郎君  
山下 義信君  
中平常太郎君  
黒川 武雄君  
草葉 隆圓君  
中山 薩彥君  
竹中 七郎君  
小杉 イ子君  
井上なつゑ君  
岡田 修一君  
河合 庄平君

説明員	厚生政務次官 (保険局長)	厚生事務官 (厚生事務官 ・運輸局長)	運輸事務官 (運輸局長)	海運事務官 (海運局長)	運輸事務官 (運輸局長)	厚生事務官 (保険課長)	厚生事務官 (保険課長)	厚生事務官 (保険課長)	厚生事務官 (保険課長)
厚生事務次官 (保険局長)	塚本 重蔵君	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君
厚生事務官 (厚生事務官 ・運輸局長)	宮崎本一君	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君
運輸事務官 (運輸局長)	山口 傳君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
海運事務官 (海運局長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
運輸事務官 (運輸局長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
厚生事務官 (保険課長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
厚生事務官 (保険課長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
厚生事務官 (保険課長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
厚生事務官 (保険課長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君
厚生事務官 (保険課長)	井上なつゑ君	岡田 修一君	河合 庄平君	山口 傳君	小島 徳雄君	竹中 七郎君	小杉 イ子君	中平常太郎君	井上なつゑ君